

## 那須岳の火山活動解説資料（令和3年4月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図1～5、図6-①②、図7-①）

湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約5km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約0.8km）による観測では、茶臼岳の噴気は100m以下で推移しました。

27日に実施した現地調査では、北西斜面や西斜面（無間地獄）の地熱域の広がりや西斜面の噴気孔Aの温度に、前回（2019年10月3日）と比較して大きな変化は認められませんでした。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図6-③、図7-②、図8）

那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。震源は、主に茶臼岳付近の深さ0～2kmに分布しました。

火山性微動は観測されていません。

#### ・ 地殻変動の状況（図7-③～⑦、図9）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 那須岳 茶臼岳の状況（4月8日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（令和3年5月分）は令和3年6月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

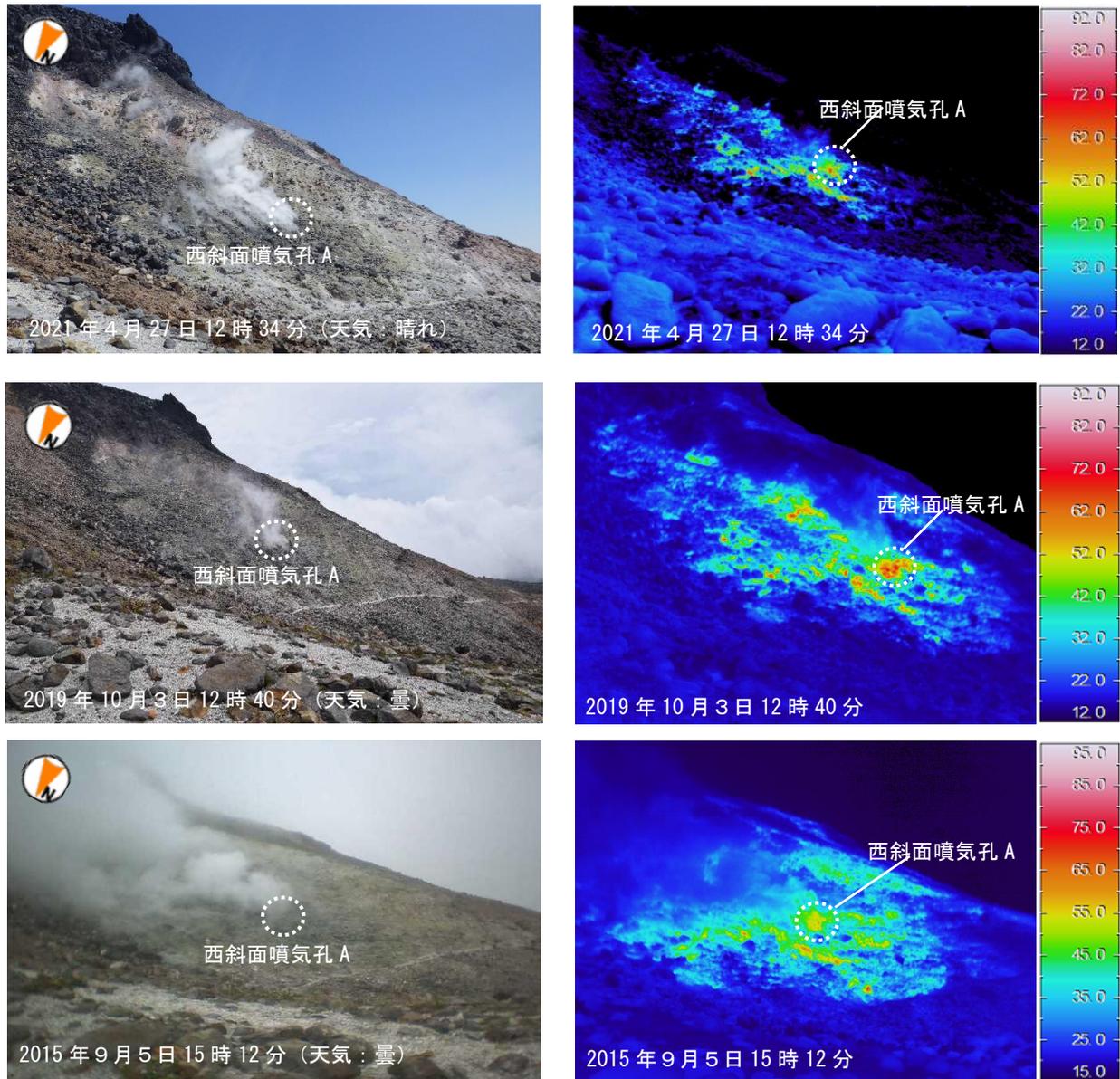


図2 茶臼岳西斜面無間地獄付近の状況

- ・前回観測（2019年10月3日）同様、2015年頃と比較して噴気量は少ないですが、噴気活動は継続していました。
- ・赤外線熱映像装置による観測では、前回観測（2019年10月3日）と比べ、高温域の分布に特段の変化は認められませんでした。

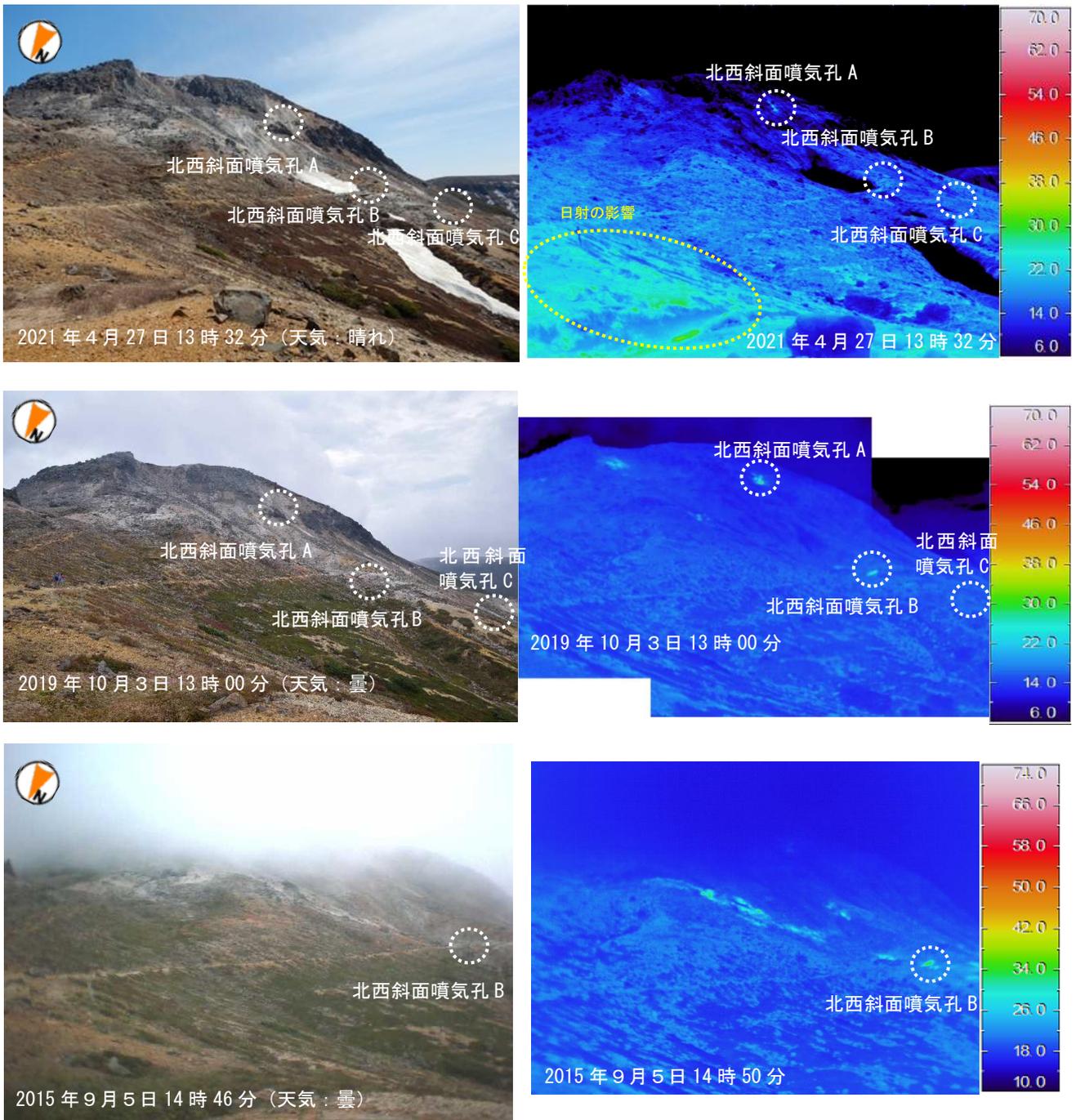


図3 茶臼岳北西斜面の状況

- ・ 前回（2019年10月3日）の観測同様、北西斜面噴気孔Aから引き続き噴気が出ていることを確認しました。北西斜面噴気孔B、Cでは噴気は認められませんでした。
- ・ 赤外熱映像装置による観測では、北西斜面噴気孔Aに対応する地熱域が認められましたが、北西斜面噴気孔B、Cに対応する明瞭な地熱域は認められませんでした。

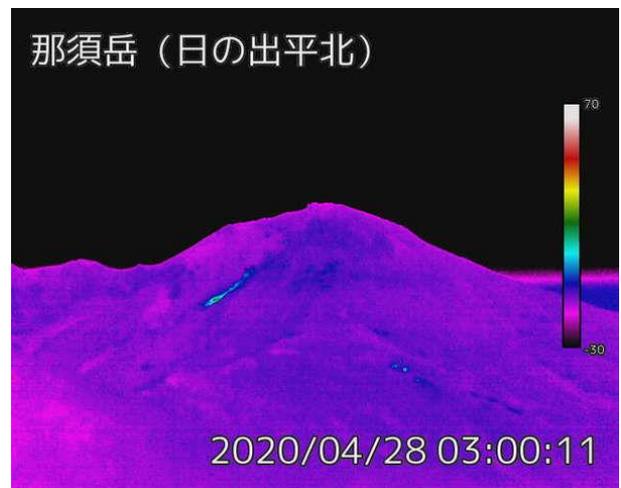
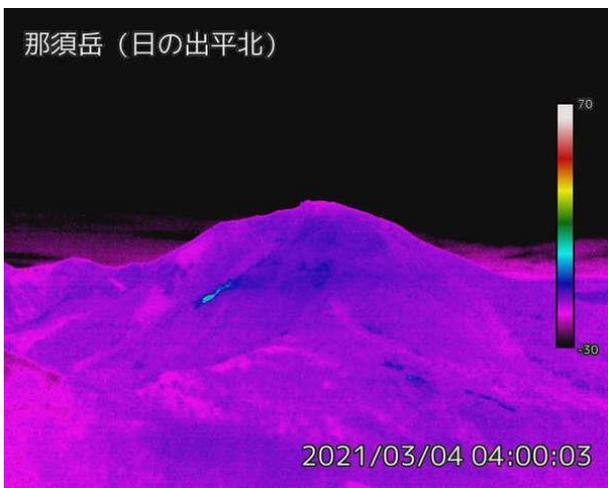
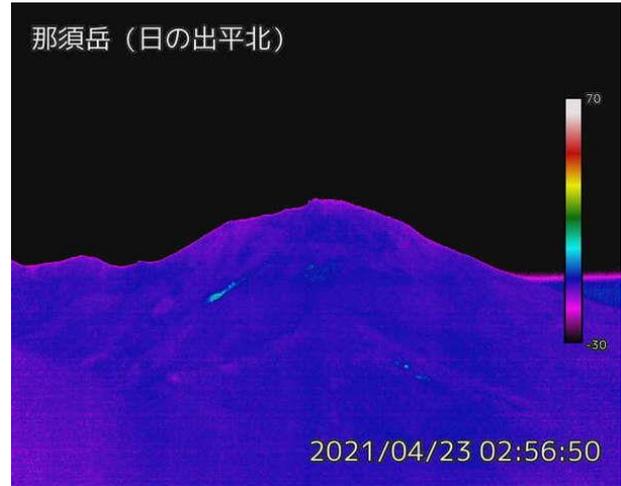


図4 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）

- ・噴気地帯に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
- ・前月（左下図）及び前年（右下図）と比較して、地表面温度分布に特段の変化は認められません。



図5 那須岳 現地調査での撮影位置・撮影方向、及び監視カメラの位置・撮影方向（赤丸：撮影位置、→：撮影方向）

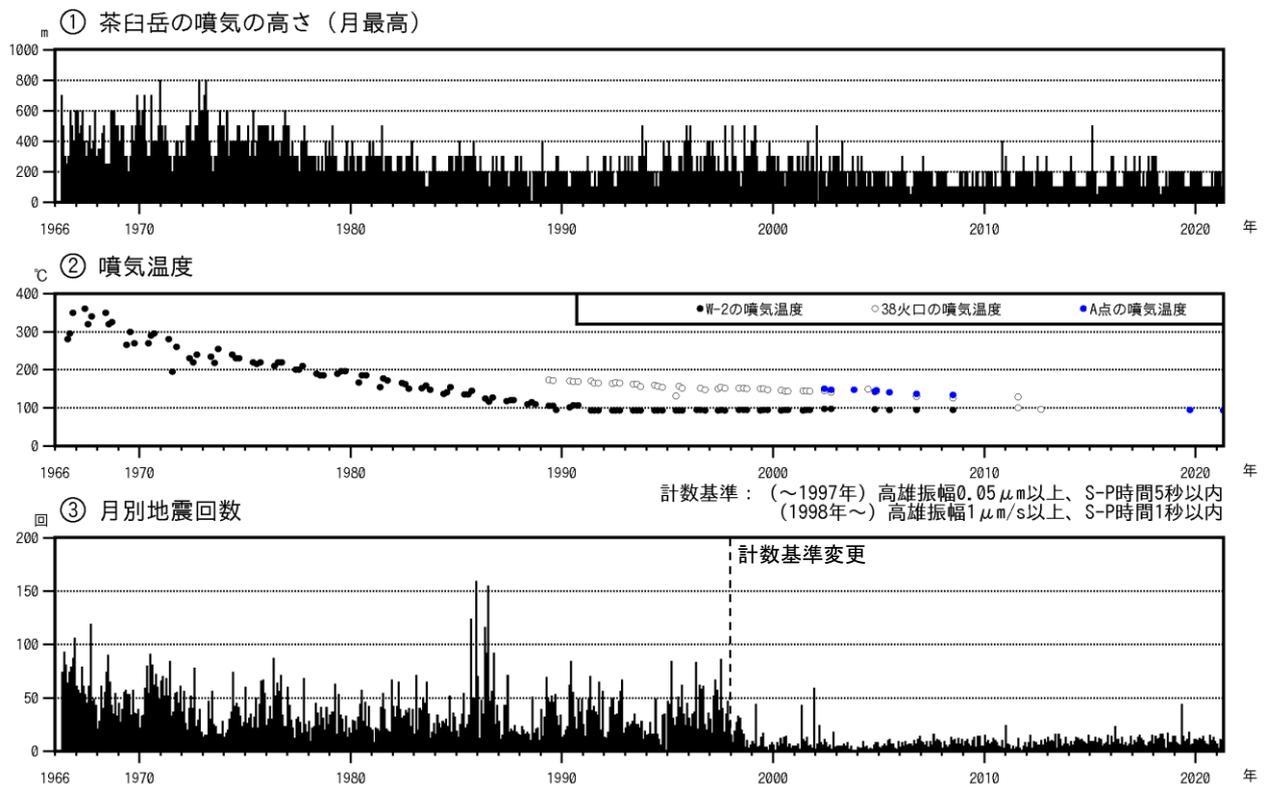


図6 那須岳 火山活動経過図（1966年1月～2021年4月）

- ① 2002年2月以前は、定時観測（09時・15時）による月最大値
- ② 噴気温度のW-2、38火口及びA点はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測点
- ③ 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

- ・噴気活動、地震活動は低調に経過しています。
- ・27日に実施した現地調査では、前回（2019年10月3日）と比較して、西斜面（無間地獄）の噴気孔Aの温度に大きな変化は認められませんでした。

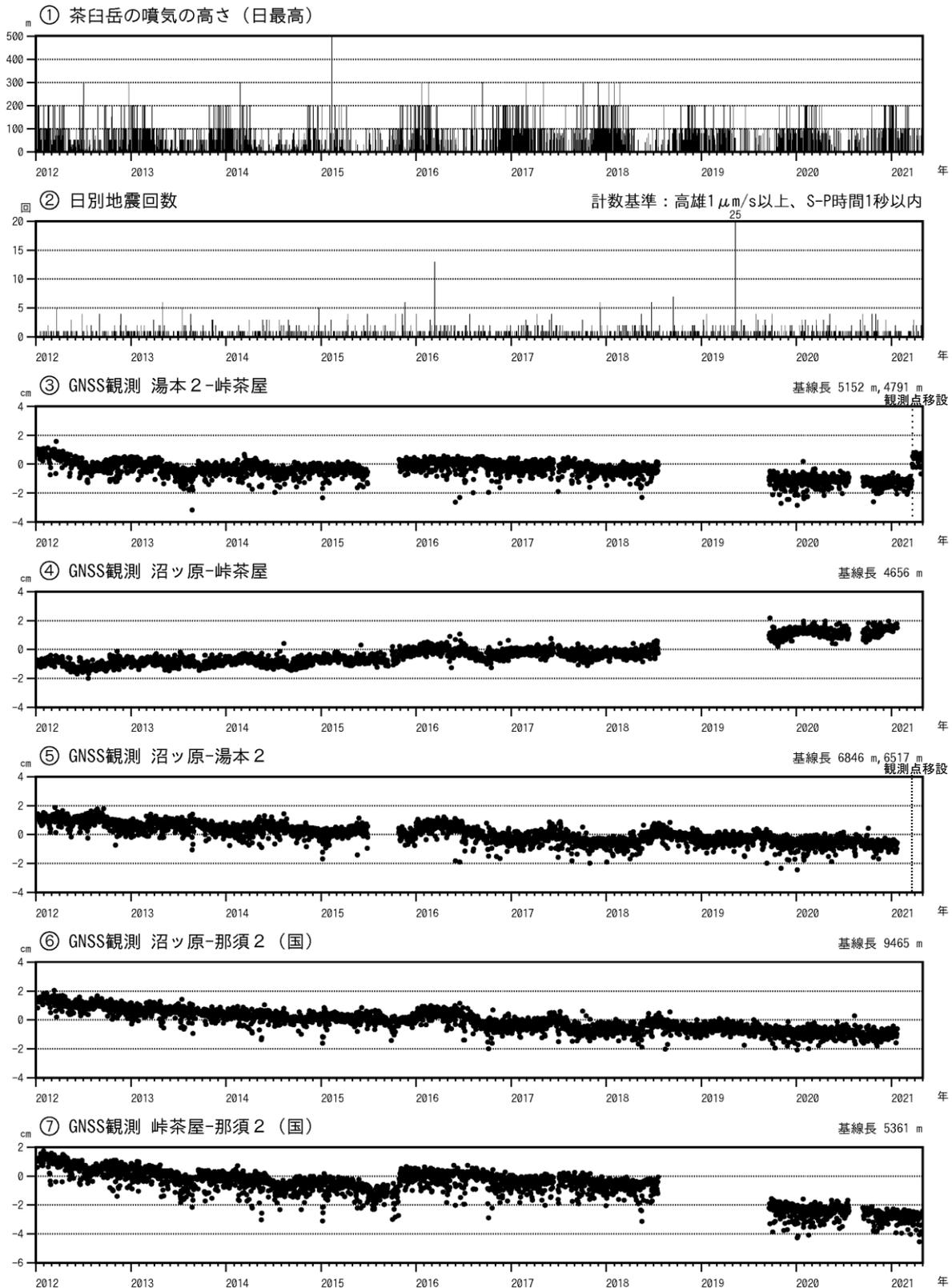


図7 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2021年4月30日）

- ③～⑦ GNSS 連続観測による基線長変化を示しており、図9のGNSS基線③～⑦に対応しています。
- 2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。空白部分は欠測を示します。
- ③⑤ 湯本2観測点は、2021年3月23日に観測点移設を行いました。
- ③④⑦ 峠茶屋観測点は、2019年9月9日に機器更新をしています。
- ⑤ 基線長変化にみられる夏季の伸びの傾向は、季節変動と考えられます。
- ・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS 連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。

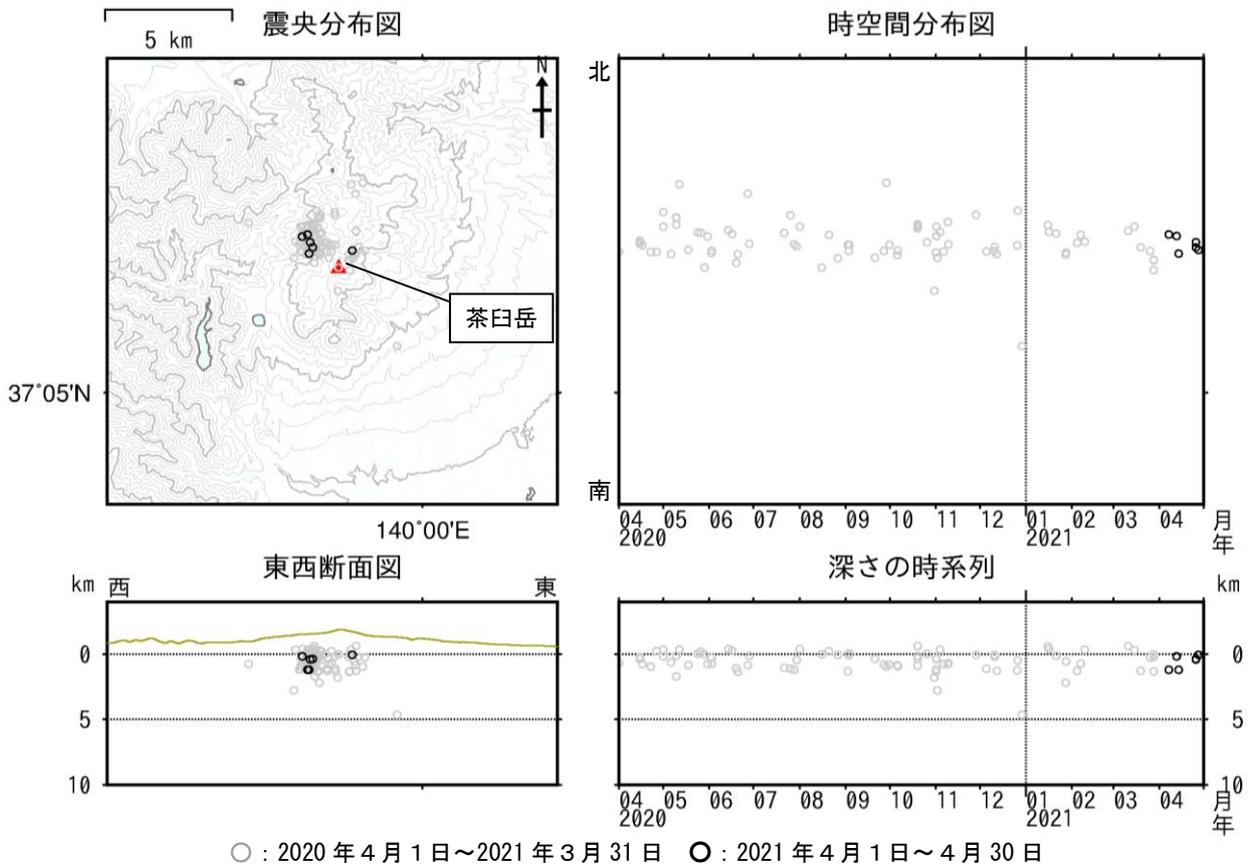


図8 那須岳 震源分布図（2020年4月1日～2021年4月30日）

- ・ 那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
- ・ 震源は、主に茶臼岳付近の深さ0～2 kmに分布しました。

